



学校支援なかにわ

代表 丹羽 祐介さん

丹羽祐介さんと仲筋純平さんが代表を務め、十勝で幅広く学校支援活動を行う任意団体「学校支援なかにわ」。団体名は、両代表の名前に由来するとともに、「屋外だけど敷地内」「外部組織だけど学校関係者」という「学校の中庭」のような存在でありたいという思いを込めて名付けられた。

丹羽さんは、出前授業や職業体験を中心として、キャリア教育・地域貢献・人材育成など、多方面で活躍している。帯広市出身で、大学卒業後はコンビニチェーンのスーパーバイザーをはじめ、不動産管理会社、大手工務店、外資系生命保険会社で営業職を経験。現在は(株)RKコンサルティングでの保険代理店事業や企業コンサルティングを行うかたわら、北海道教育委員会と「北海道家庭教育サポート企業等制度」の協定を締結し、管内の学校支援にも力を注いでいる。また、子ども食堂の開催など地域貢献活動にも精力的に取り組み、地元十勝の次世代育成に尽力している。

そんな多彩な経歴をもつ丹羽さんに、仕事をする上で大切にされていることや、教育現場への思いを伺った。

まず、仕事をする上で大切にされていることについて伺った。

「これまでの経験から『現場に必ず足を運ぶ』ことの大切さを学び、今もそれを最優先にしています。学校で様々な取組をさせていただくにあたって、『先生方のニーズ』と『我々の支援や活動の方針』が合致しているかどうかは、直接お会いして意見を交わさなければ分かりません。貴重な授業時間を頂く以上、学校とのすれ違いを徹底的に防ぐ必要があります。そのために、事前の打ち合わせを対面で行うことで、一方的に授業を提供するのではなく『共創』させていただくことを常に意識しています。共創の中で、新たなアイデアが生まれ、活動が更に広がることもあります。」

と、語られた。

続けて、学校に対する思いを伺った。「いまの学校は職業体験学習などのキャリア教育や職場体験学習、金融教育など、社会について学ぶ機会に恵まれていて、私たちの世代から見ると羨ましく感じます。その貴重な活動を支える先生方の負担や苦勞を少しでも軽くしたいという思いで、日々活動しているところです。その一環として、学校と企業をつなぐ『マッチングサイト』の制作を計画しています。学校側が求める人材や授業内容と、企業側が伝えたい取組や育てたい社会の担い手像をつなぐ場をつくりたい。そうした出会いを通して、子どもたちが『十勝で働く自分』を具体的にイメージできるようなってほしいと願っています。家庭や学校の大人のみにでなく、普段はなかなか触れ合うことができなような地域の人材との出会いを通して、十勝ならではのよさやポテンシャルにも目を向けてほしいです。

最後に、
「私自身、様々なキャリアを通して、『自分の軸をもつこと』の大切さを学びました。最近の子どもたちは、自己表現が控えめな傾向にあると感じます。失敗を恐れて踏み出せない子どもには『うまくやらなくてもいい。失敗はあっても間違いはない』と伝えたいです。『これはこういうものだろう』という固定観念にとらわれず、挑戦する姿勢をもち続けてほしいと思います。私たちは、様々な考え方や生き方をもつ大人と、未来を担う子どもたちをつなぐハブとして活動しています。ぜひ先生方にも、私たちを積極的に活用していただき、子どもたちと一緒に新たな体験を楽しんでいただければと思います。」

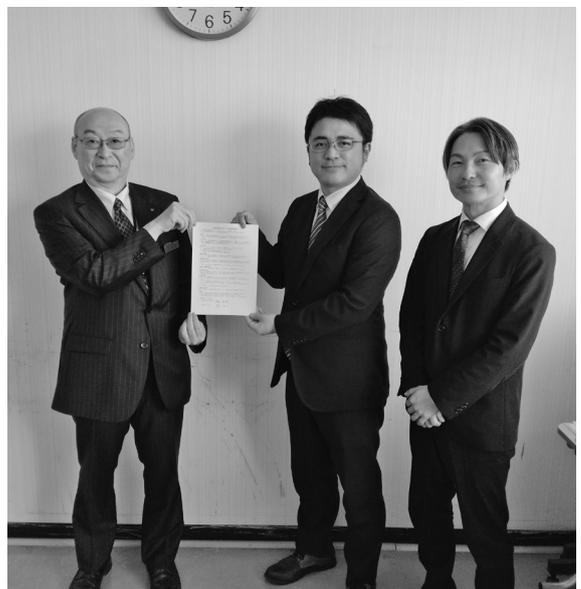
大人も子どもと共に学ぶことが大切です。大人がもっと十勝を好きになることが、子どもの未来、そして十勝の未来につながると信じています。」

失敗はあっても間違いはない。

挑戦する姿勢をもち続けてほしい。



上：丹羽さんによるマナー講座の様子
下：仲筋さんによるギア紹介の様子



北海道家庭教育サポート企業等制度の協定締結時
(十勝教育局の和田局長、丹羽さん、仲筋さん)

学校支援 なかにわ

問合せ先

- ◆ 電話 080-1884-5564
- ◆ instagram naka_niwa_120124

